

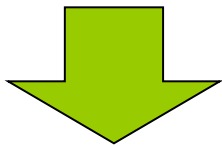
大分市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

○大分市中心市街地は、中世戦国時代から商都とし発展し、瀬戸内ルートを主幹とした「海の道」と東九州内の海陸ネットワークの基点として発展

○郊外店の進出により中心市街地内の商店の吸引力・魅力が低下

○中心市街地で連続立体交差と土地区画整理事業を開始 (H26年度完成予定)



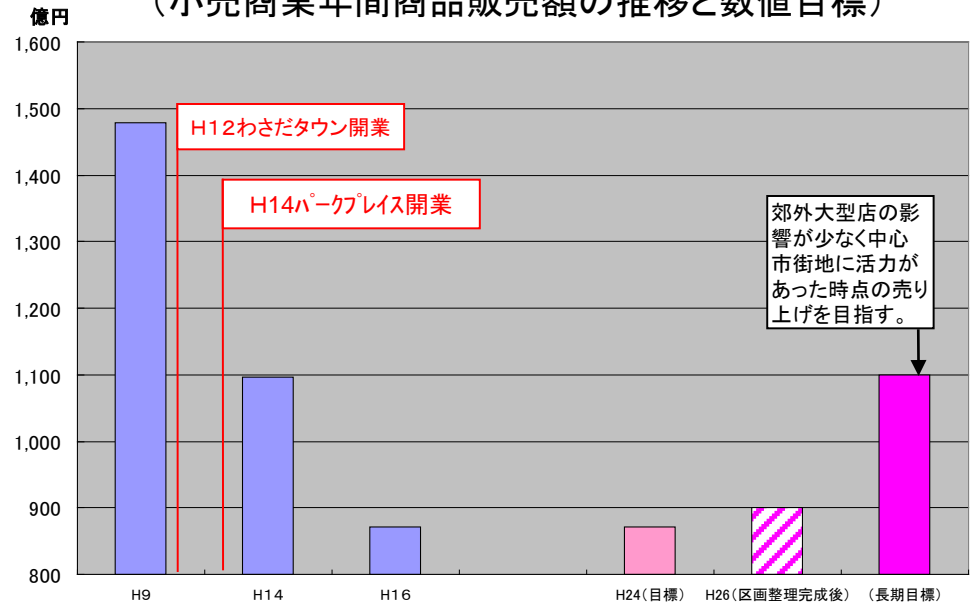
○中心市街地の年間商品販売額
H9: 1,479億円 → H16: 872億円 (△41%)

○中心市街地の歩行者通行量(土・日曜日)
H12: 471,907人 → H18: 326,833人 (△31%)

【目標】

目標	指標	現況値(H18)	目標値(H24)
こだわりに出会える価値観の高い商業の再生	小売商業年間商品販売額(H16)	872億円	880億円
安心・安全に回遊できるひと中心のまち創出	歩行者通行量(土・日)	326,833人	350,000人
街なかで過ごすライフスタイルを提案するまち創出	まちなか滞留時間(3時間以上)	37.4%	40%

(小売商業年間商品販売額の推移と数値目標)



連続立体交差事業にあわせて整備する中心市街地の南側を文化地域としての役割を担わせることにより、南北が一体となって、賑わい創出を目指す。

大分市中心市街地活性化基本計画の事業概要

価値観の高い商業の再生

○トキハ周辺活性化事業

地元資本の百貨店を核として周辺の商店街等と連携した活性化事業を行うことで、中心地区の活性化を図る。

- ・中央通りと連携した中心商業地の集客・回遊性向上とコミュニティ形成事業
- ・トキハ周辺の空き店舗を活用した話題性のある店舗のテナント誘致事業
- ・トキハ会館外周部(遊休地)を活用したチャレンジショップ事業



トキハ会館外周部チャレンジショップ

まちなかコンシェルジュ(イメージ)

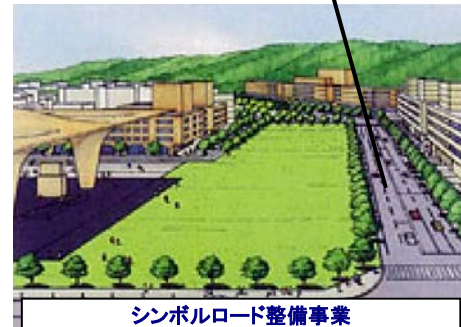
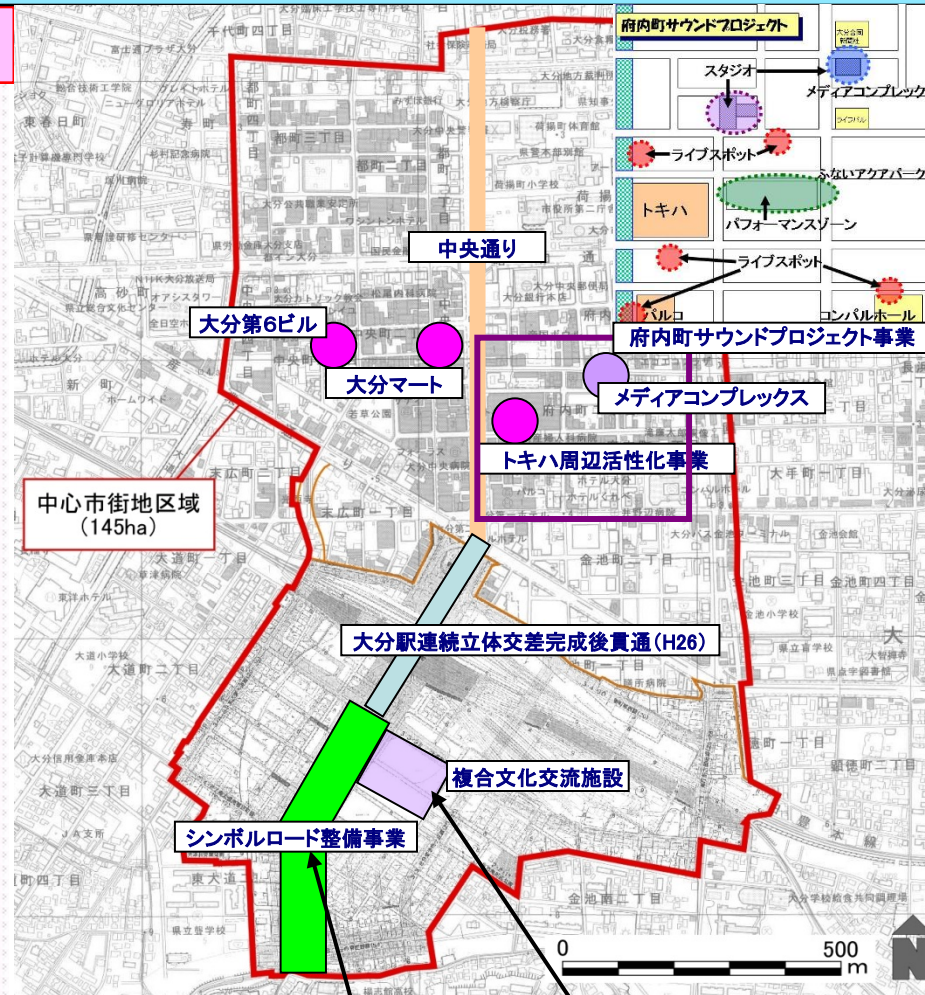
○新大分第6ビルリノベーション

商店街の中古ビルを再生し、飲食店や商店街に不足する店舗の入居により竹町商店街全体の賑わいを創出



○大分マートリニューアル事業

空き店舗が増加している大分マートを昼は最寄品、夜は屋台街として再生させ、商店街をつなぐ集客場とする。



シンボルロード整備事業



複合文化交流施設

ひと中心のまち

○中央通りのひとと優先空間の再構築

現在、中央通り(幅員36M)は東西の回遊性を向上させるため、人が安心して歩ける空間に再整備する。

○シンボルロード整備事業

区画整理で整備する幅員100Mのシンボルロードはうち70M以上を歩道(緑地)として整備し、ひと中心の空間に整備

ライフスタイルを提案するまち

○メディアコンプレックス

店舗情報、観光情報等を中心市街地で様々なメディアを一元的に管理・運営し、様々なライフスタイルに対応した情報を発信



メディアコンプレックス(イメージ)



○府内町サウンドプロジェクト事業

府内町に路上ライブスポット等を受け、若手ミュージシャンの活動拠点とする。

○複合文化交流施設

区画整理により集約された区画で、社会福祉センター移転整備に併せて、文化・教育・産業・健康・福祉など多様な機能が集積した施設を整備する。